

第11回小児がん拠点病院連絡協議会  
令和2年1月17日  
フクラシア東京ステーション 6D

# 院内がん登録小児AYA集計報告など

国立成育医療研究センター

瀧本 哲也    高橋 聡子

# 小児がん中央機関の役割

- (1) 小児がんに関する相談支援の向上に関する体制整備を行うこと。また、小児がん患者・経験者の発達段階に応じた長期的な支援のあり方について検討すること。
- (2) 小児がんに関する情報を収集し、広く国民に提供すること。
- (3) 全国の小児がんに関する臨床試験の支援を行うこと。
- (4) 小児がん拠点病院等に対する診断、治療などの診療支援を行うこと。
- (5) 小児がん診療に携わる者の育成に関する国内の体制整備を行うこと。
- (6) 小児がんの登録の体制の整備を行うこと。

# がん診療連携拠点病院等院内がん登録 2016-2017年小児AYA集計 報告

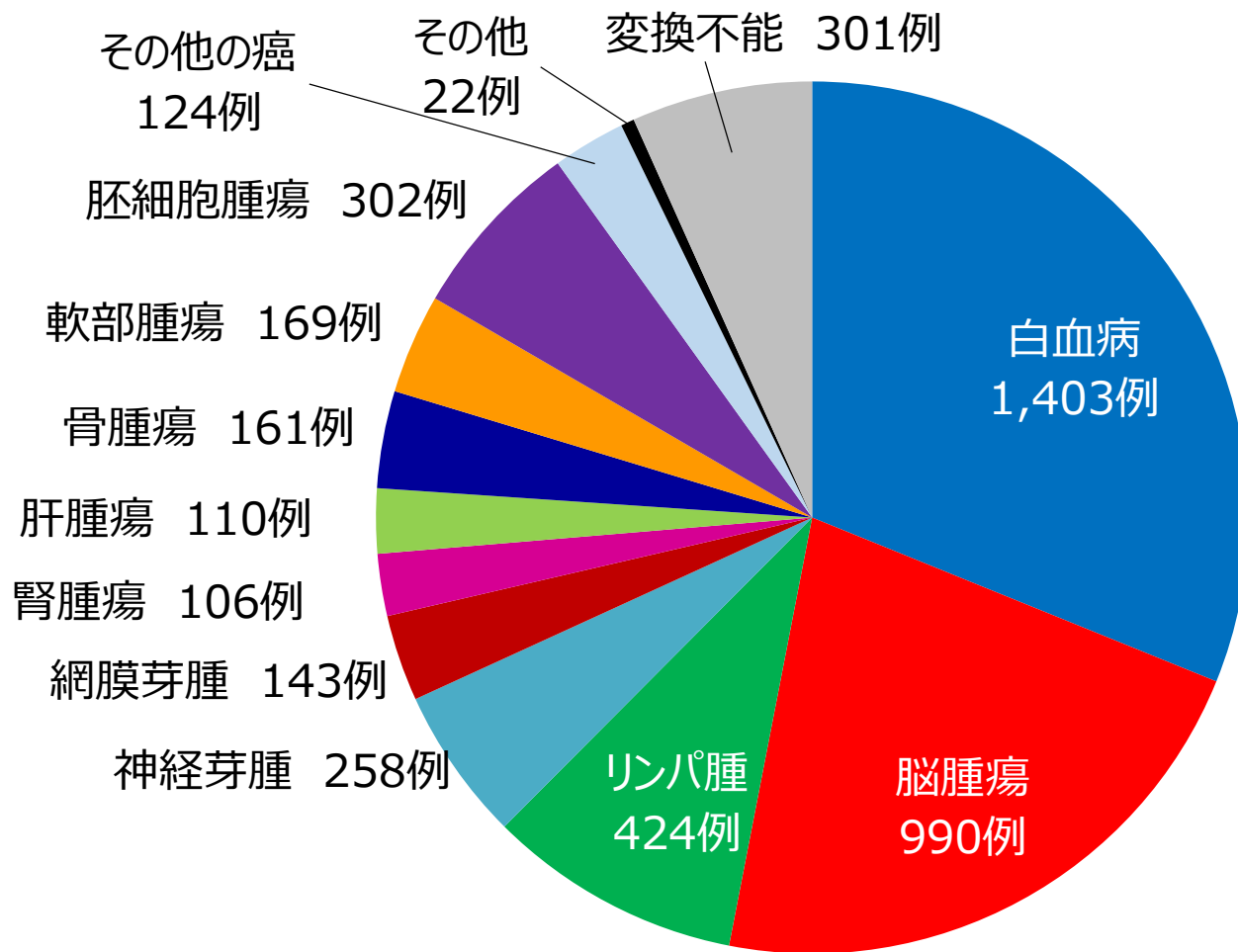
- **施設**：がん診療連携拠点病院等 452施設（小児がん拠点病院15）  
道府県推薦病院 337施設  
任意参加病院（2017年診断例から） 55施設 合計844施設
- **対象**：40歳未満の院内がん登録 自施設初回治療開始患者  
（2016年と2017年）
- **分類法**  
小児がん（0～14歳）・・・SEER国際小児がん分類  
AYA世代がん（15～39歳）・・・AYAがん分類  
（AYA Site Recode/WHO 2008 Definition）  
＊都道府県別、施設別に集計
- **対象患者総数**

|         |                            |
|---------|----------------------------|
| 小児がん    | 2016年 2,136例、2017年2,398例   |
| AYA世代がん | 2016年 29,544例、2017年29,293例 |
- **集計対象患者数**（「一部の卵巣境界悪性腫瘍」を除く）

|         |         |
|---------|---------|
| 小児がん    | 4,513例  |
| AYA世代がん | 57,788例 |
- **掲載サイト** 国立がん研究センター がん情報サービス「がん登録・統計」  
[https://ganjoho.jp/reg\\_stat/statistics/brochure/hosp\\_c\\_registry.html](https://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/brochure/hosp_c_registry.html)

# 国際小児がん分類に基づく大分類（0歳～14歳）

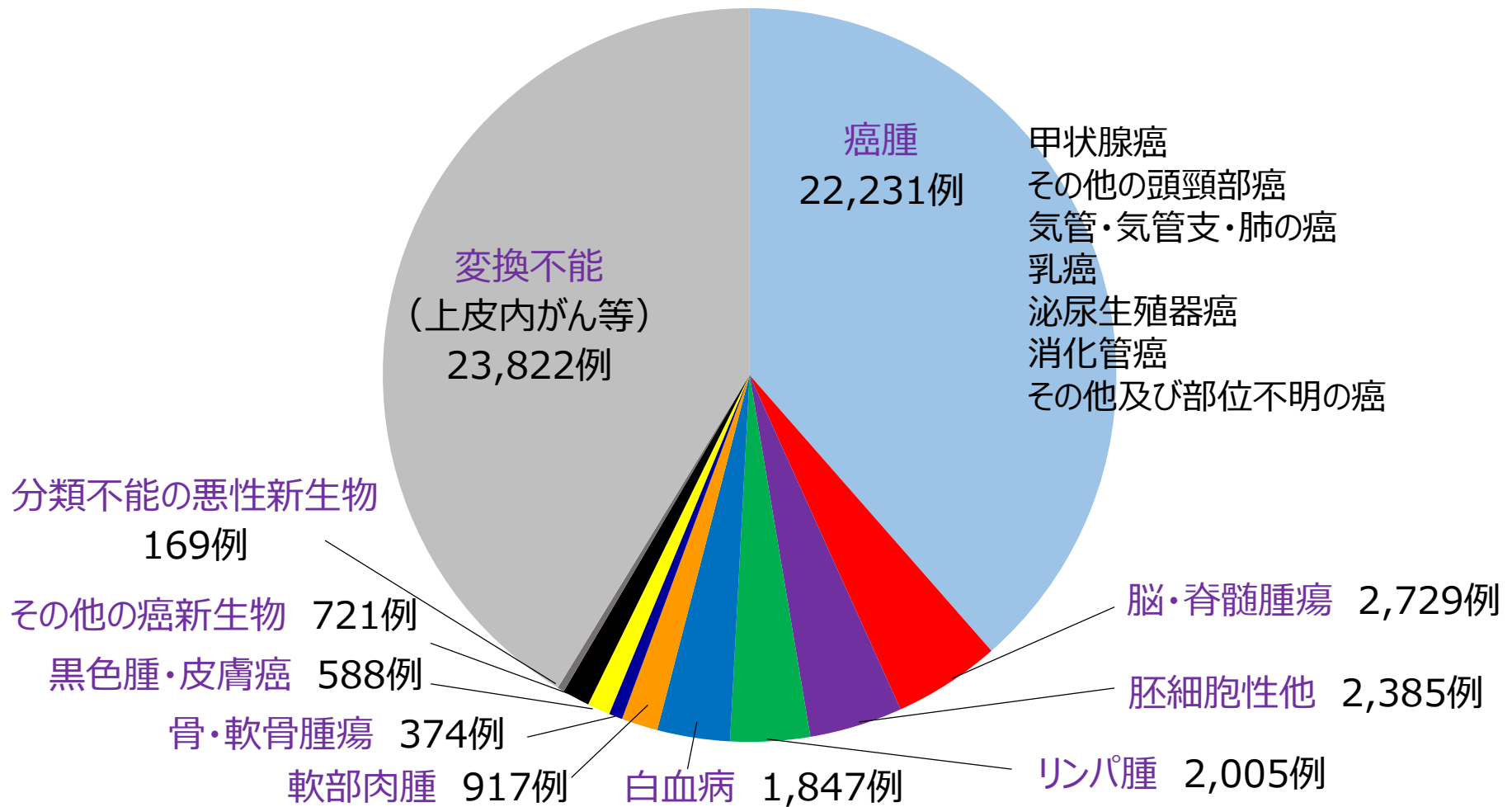
自施設初回治療開始例 4,513例（2016-2017年）



（SEER2008年版準拠）

# AYAがん分類に基づく大分類（15歳～39歳）

自施設初回治療開始例 57,788例（2016-2017年）



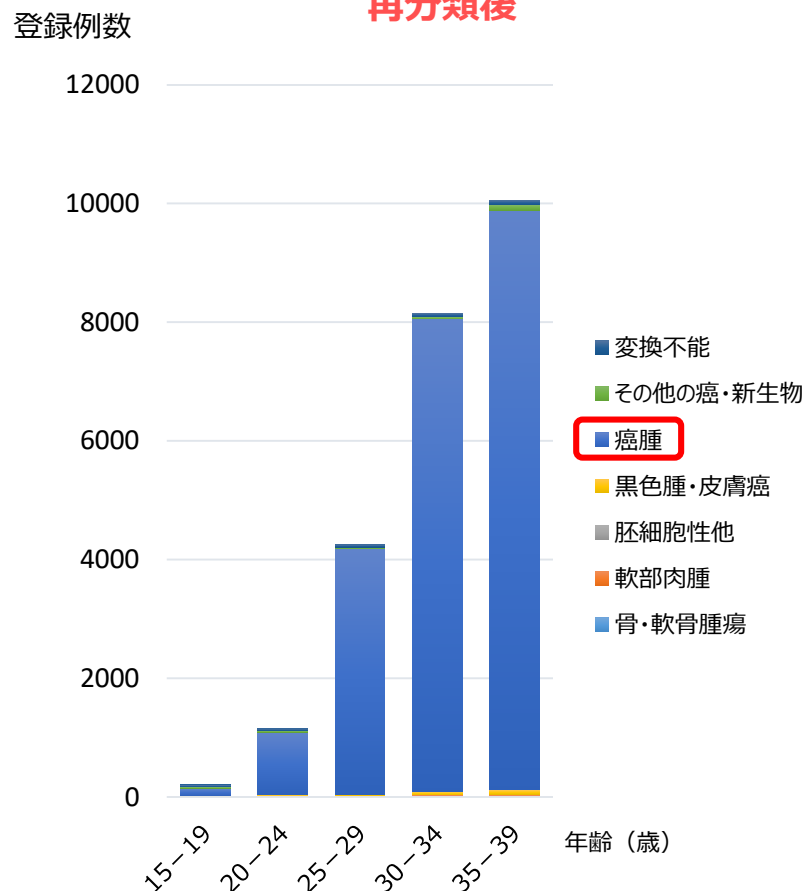
(SEER2008年版準拠)

# AYAがん分類 変換不能例の詳細

自施設初回治療開始例（15歳～39歳、2016-2017年）

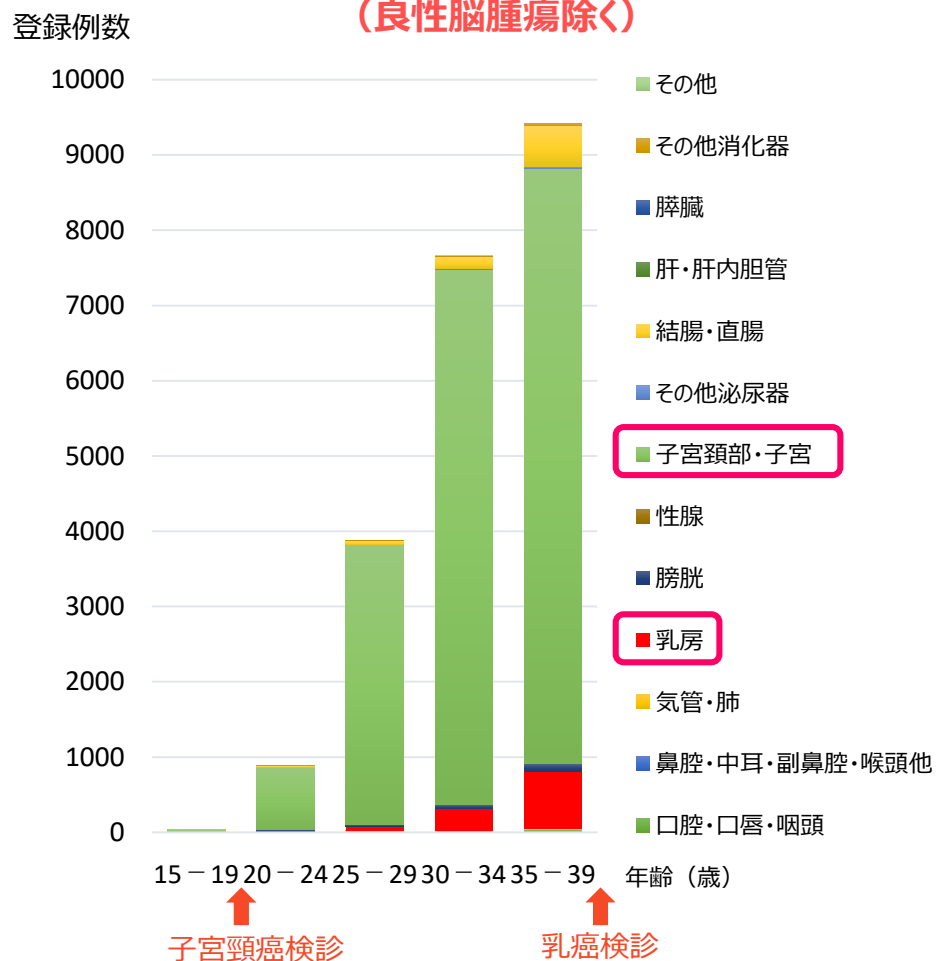
変換不能症例（上皮内がん等）

再分類後



再分類後、癌腫に該当した上皮内がんの詳細

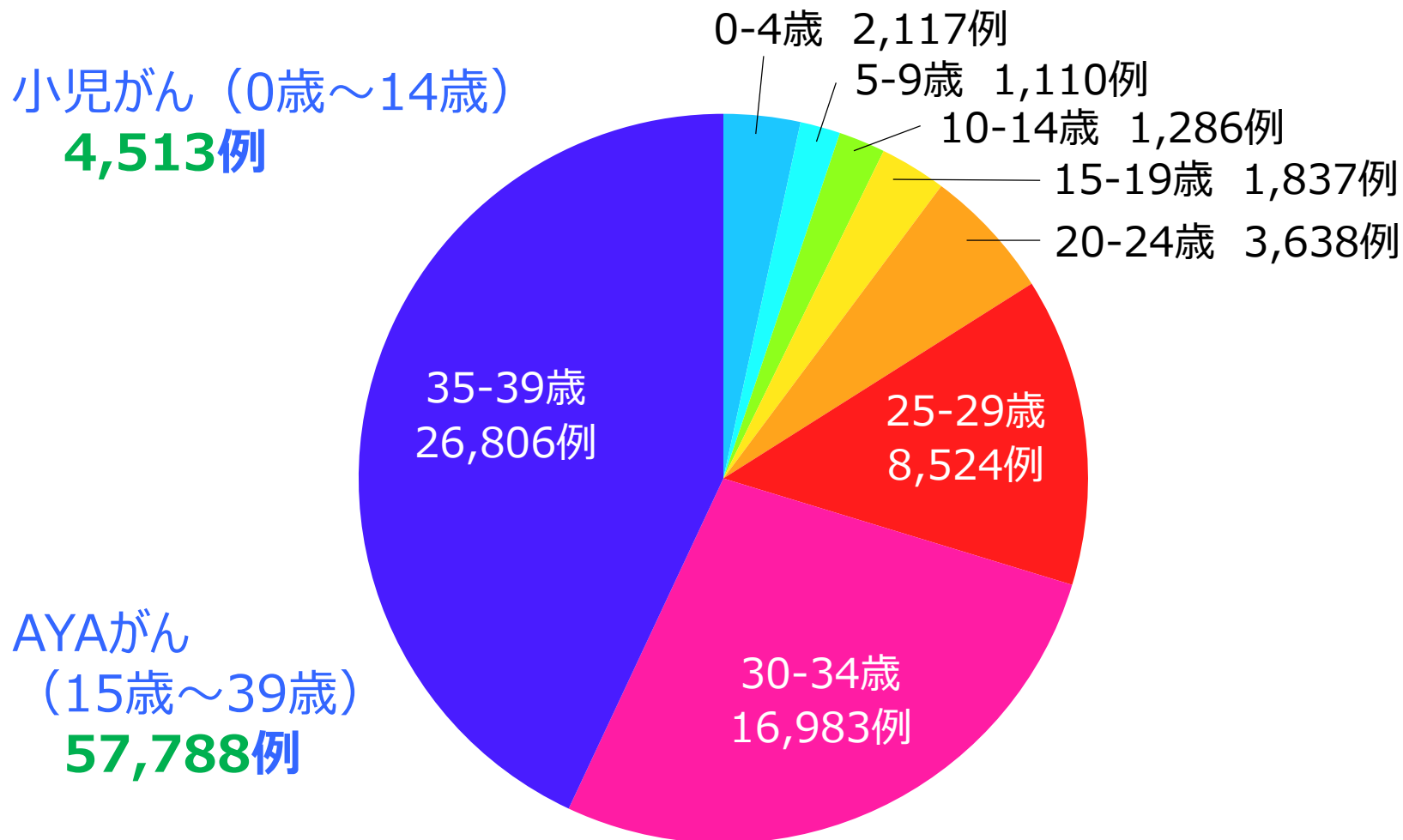
（良性脳腫瘍除く）



# 発症時年齢別の症例数

自施設初回治療開始例（0歳～39歳） **62,301例**

（一部の卵巣境界悪性腫瘍を除く）



# 男女別の年齢階級別罹患数

自施設初回治療開始例 62,301例  
(0歳～39歳、2016－2017年)

登録例数

30000

25000

20000

15000

10000

5000

0

■ 男性  
■ 女性

**20～39歳のがんの約80%は女性である。**

0-4

5-9

10-14

15-19

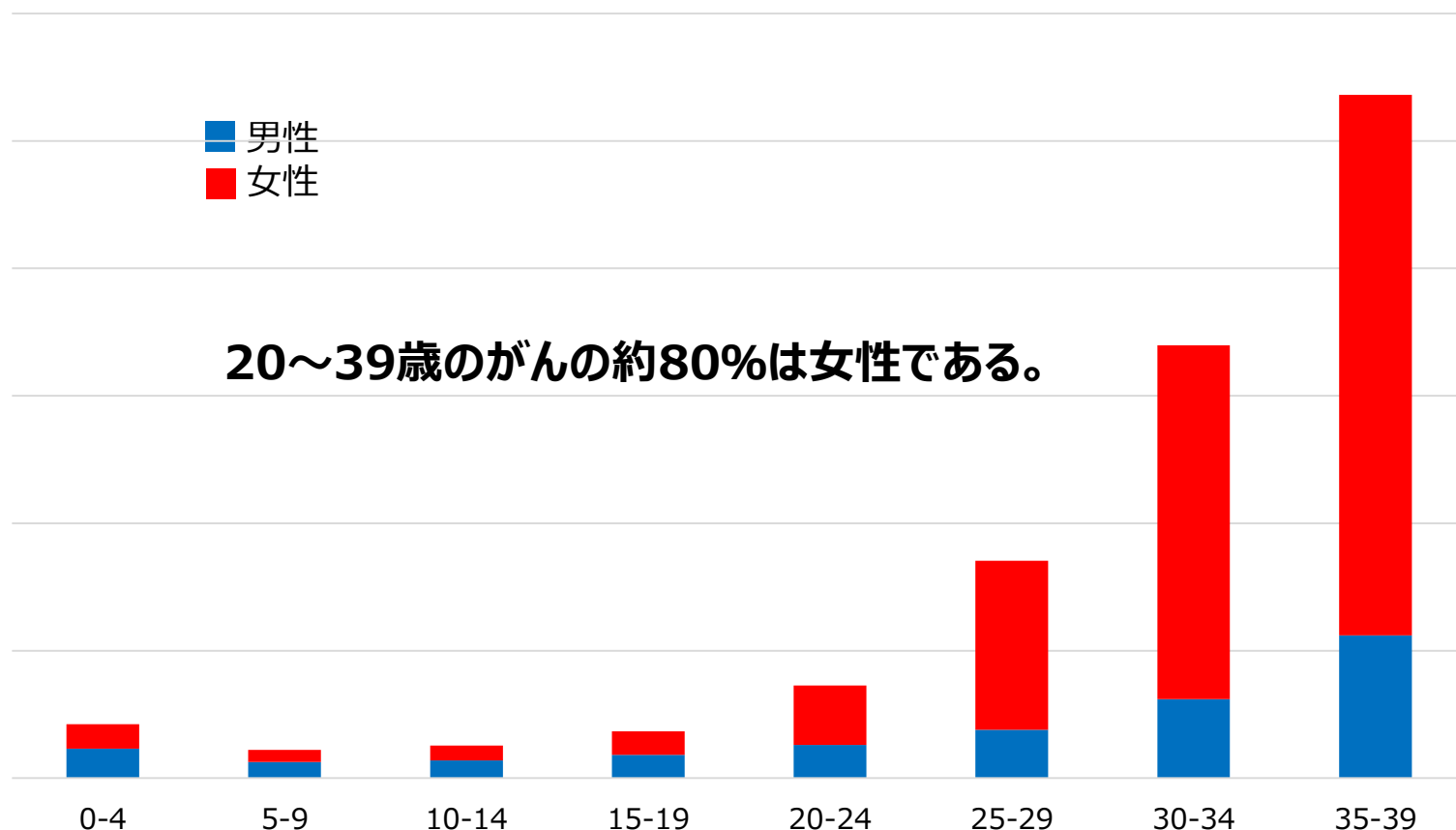
20-24

25-29

30-34

35-39

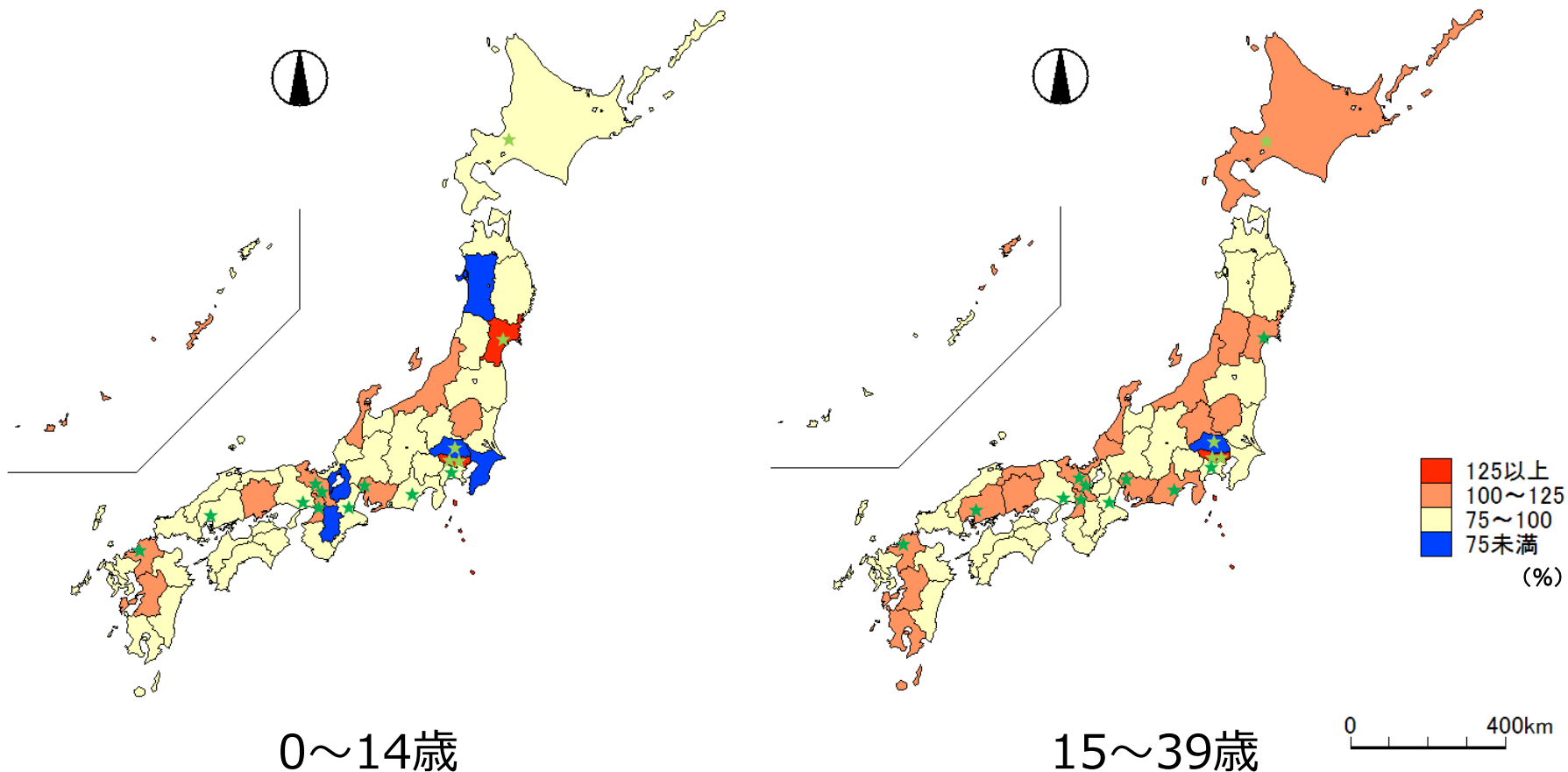
年齢区分





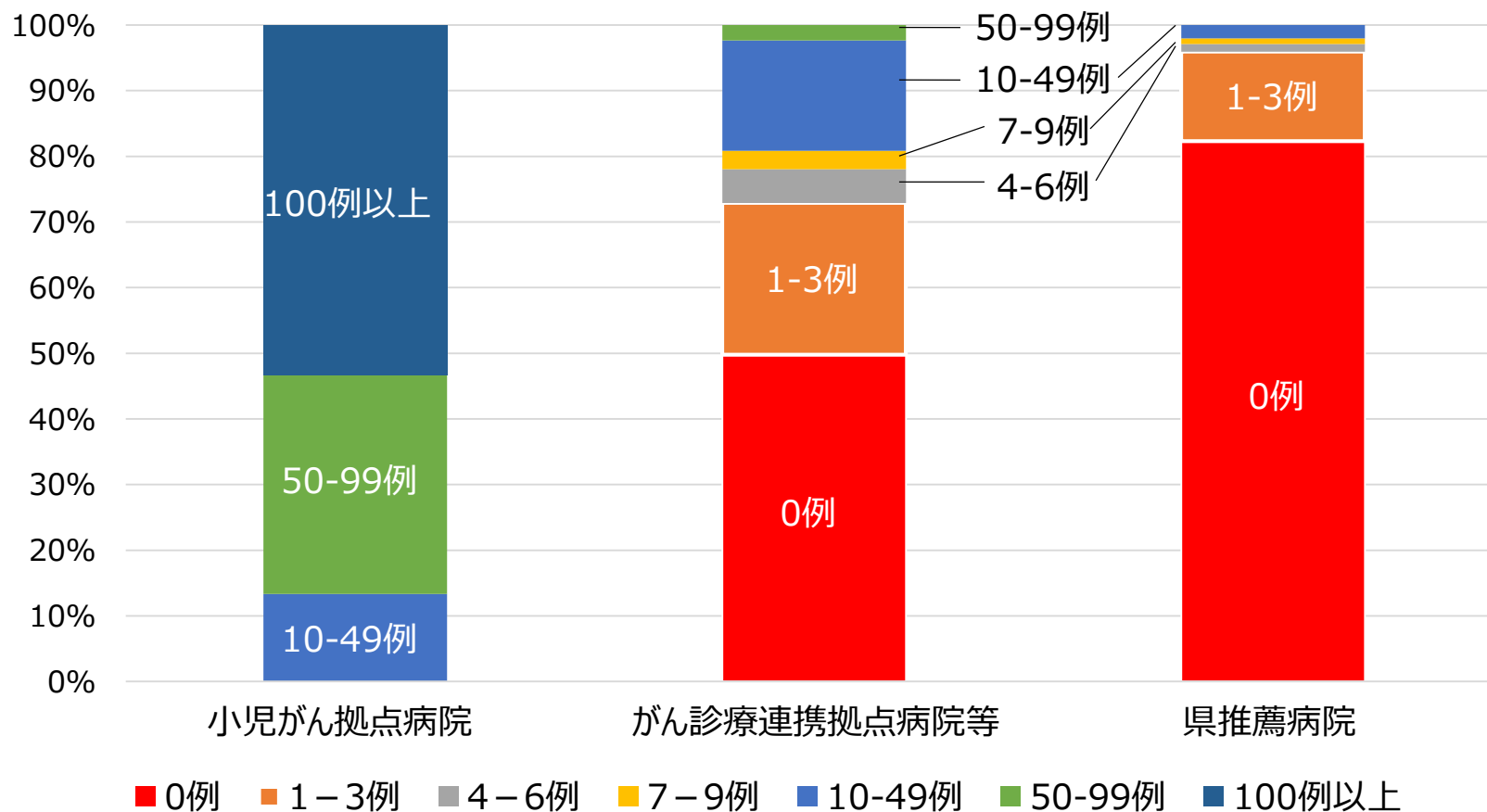
# 診断時住所と初回治療開始施設所在地

14歳以下では15歳以上よりも患者の県外への流出・流入ともに多いことが示唆された。



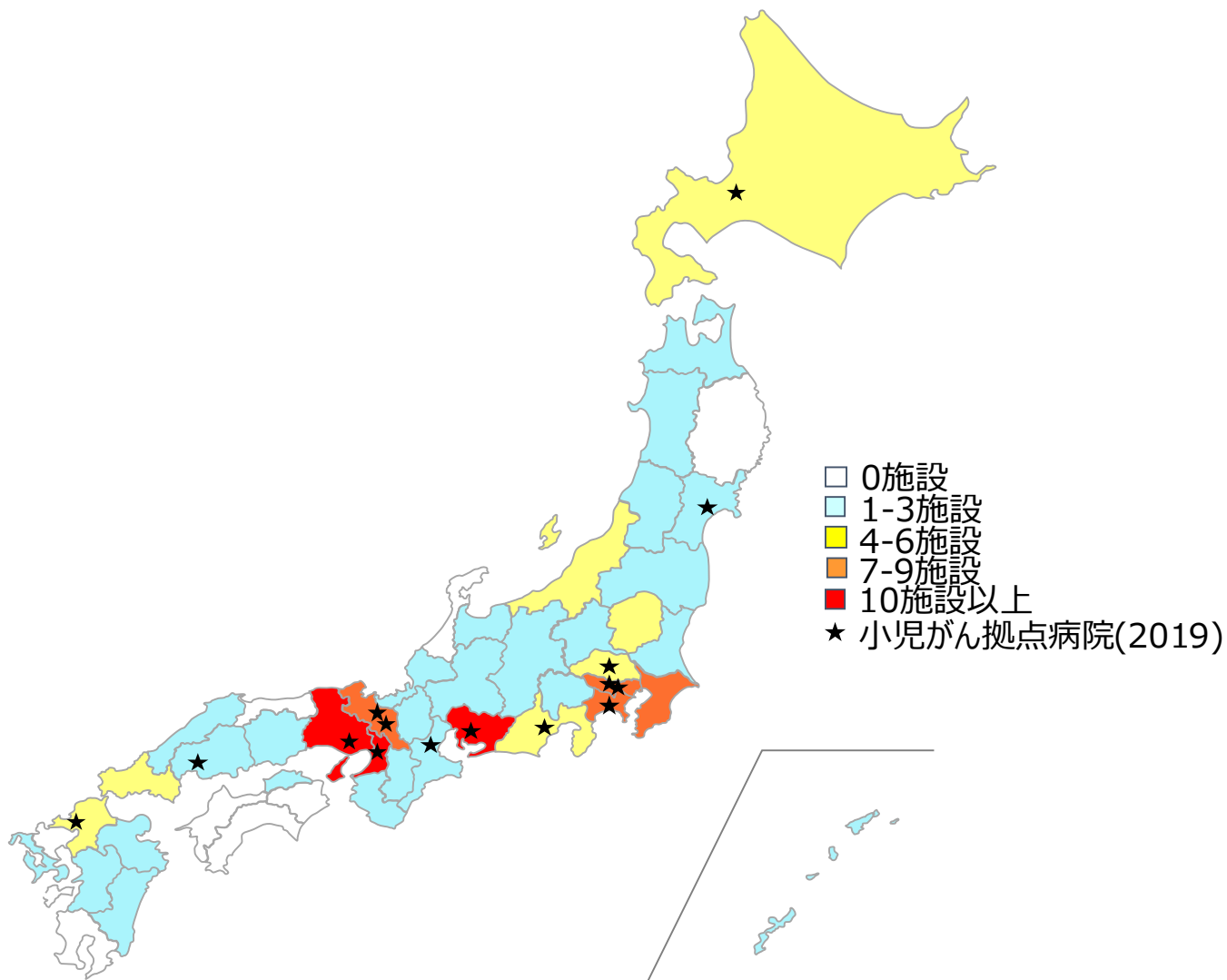
# 病院種別の15歳未満症例数

がん診療連携拠点病院等の約25%、県推薦病院の約15%で、調査対象の2年間に1－3名の小児がん患者を初回治療していた



# 小児がん初回治療症例数が2年間に1-3例の施設の分布

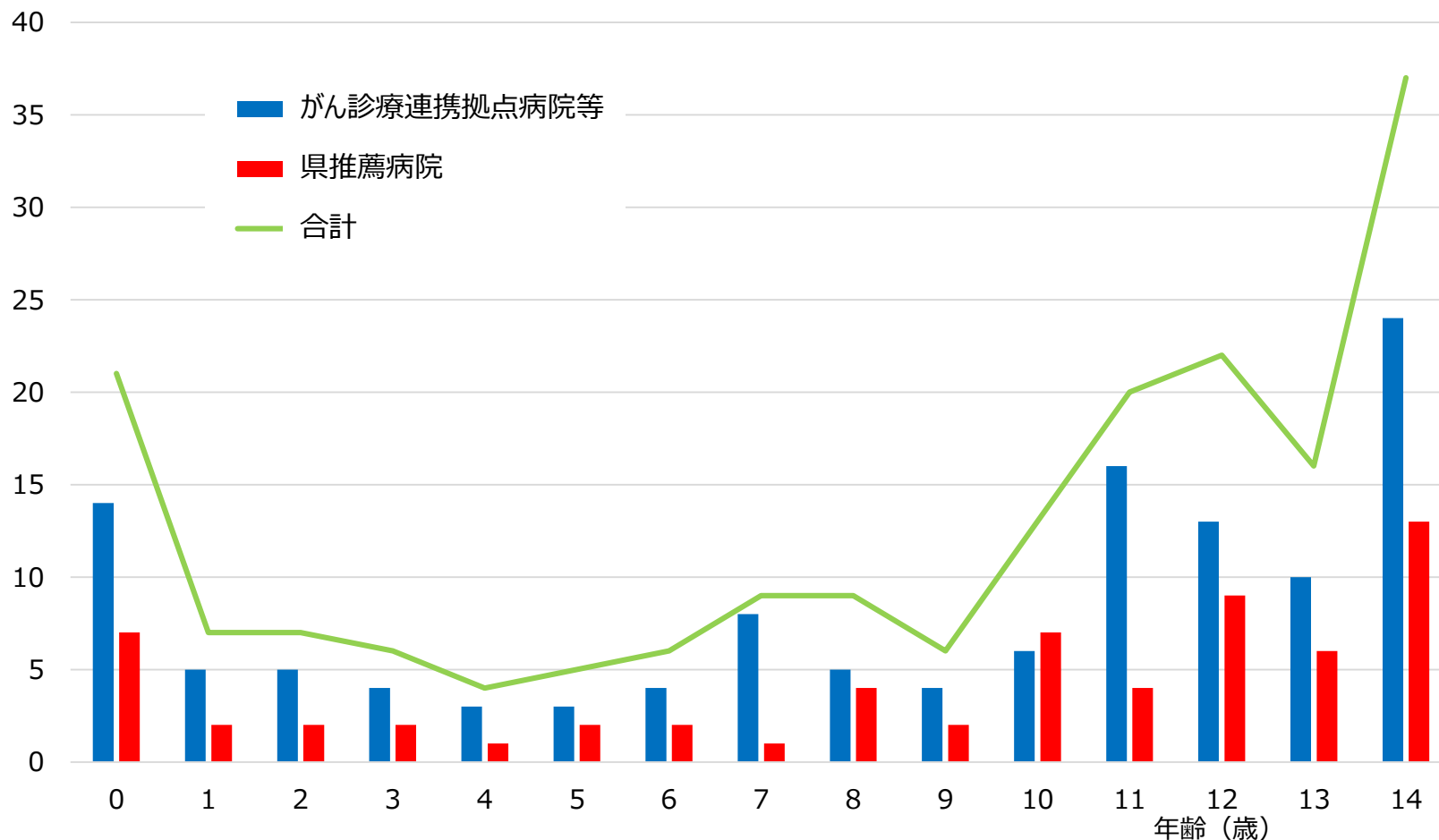
少数診療施設は、146施設、治療された症例は202症例  
首都圏、東海、近畿地区に多いが、全国に分布している



# 小児がん初回治療症例数が2年間に1-3例 の施設で治療された患児の年齢分布

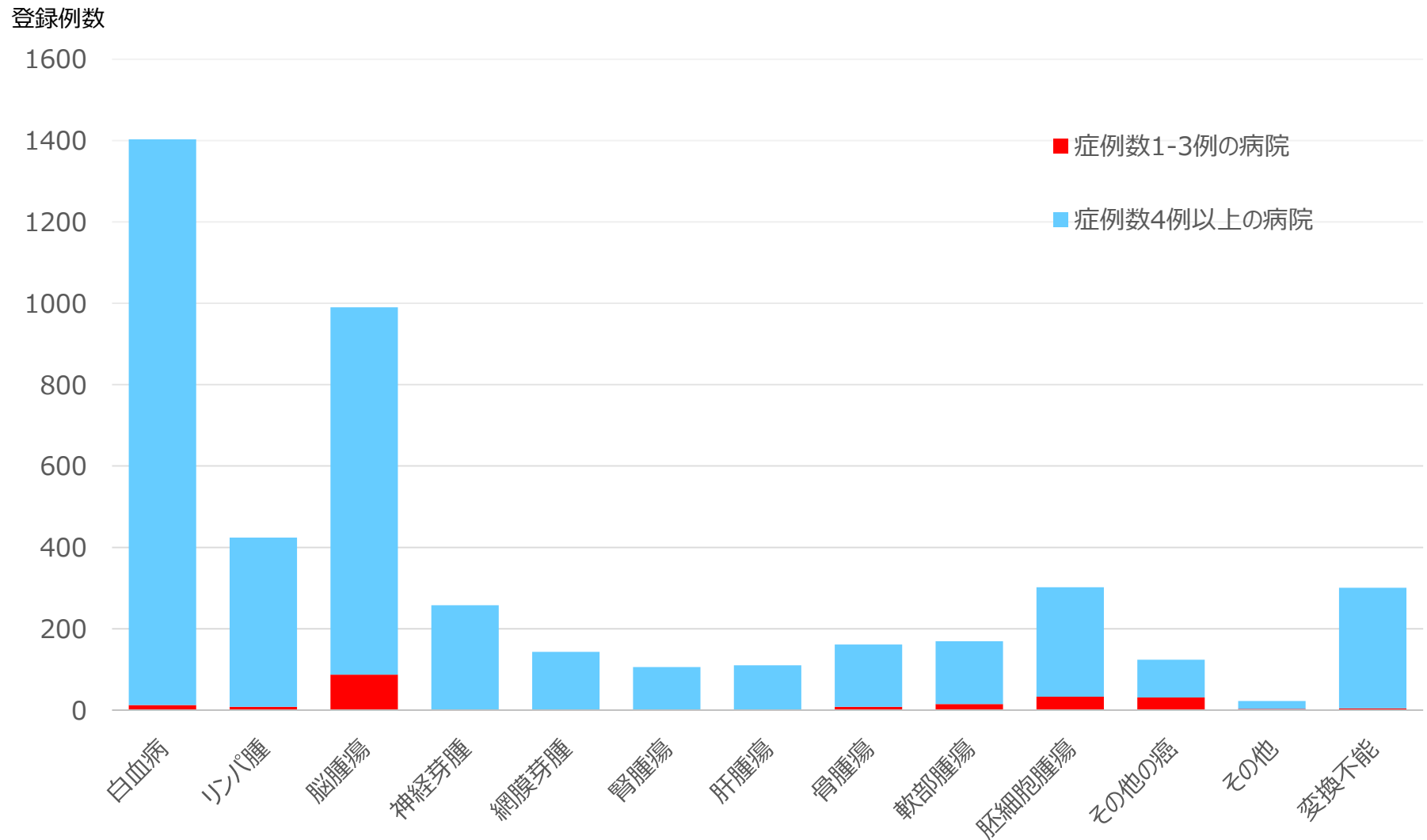
AYA世代に近い年齢層に多いが、乳幼児も多い

登録例数



# 小児がん初回治療症例数が2年間に 1-3例の施設で治療された疾患別患者数

疾患別では脳腫瘍が多く、ついで胚細胞腫瘍が多い

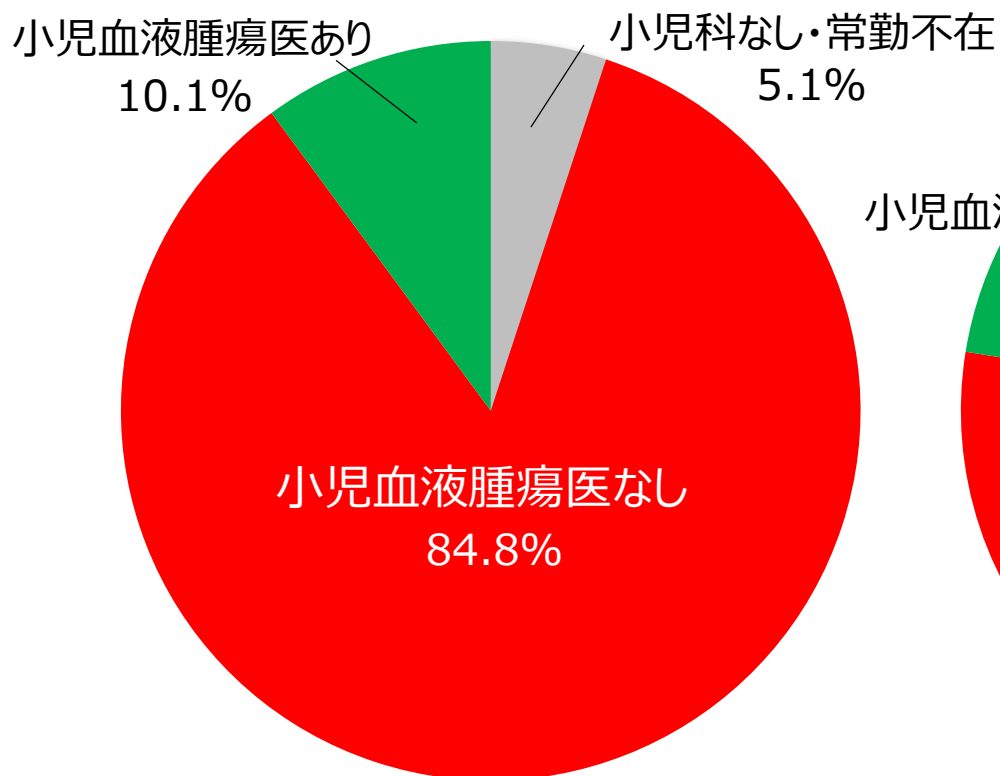


# がん診療連携拠点病院等院内がん登録 2016-2017年小児AYA集計 まとめ

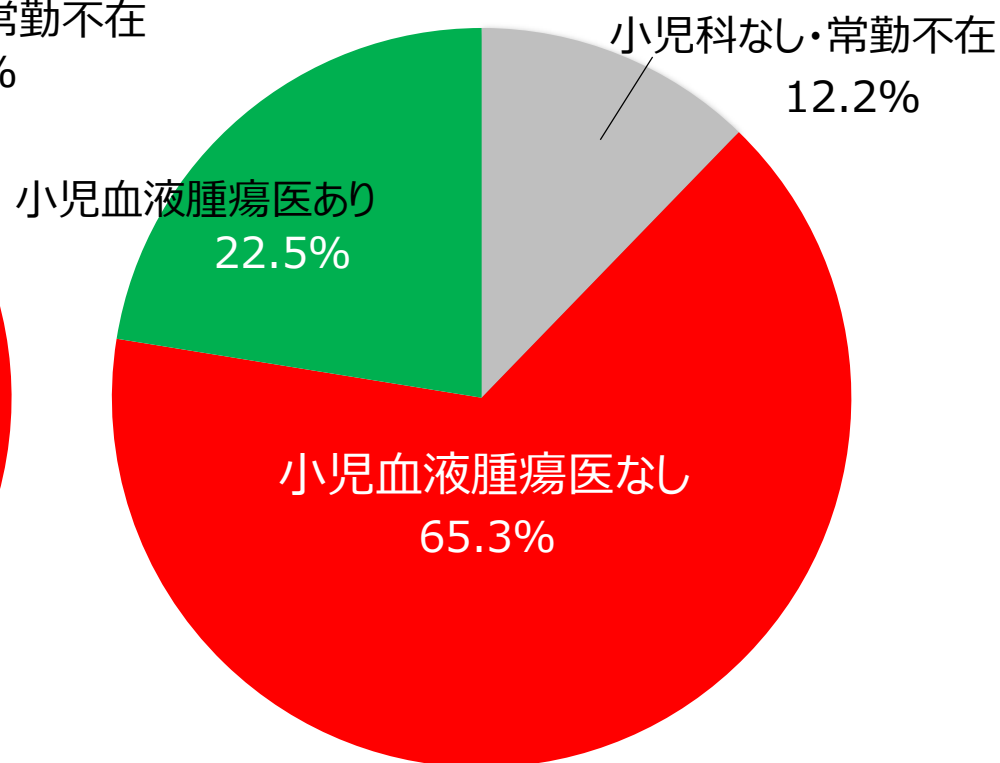
- 1) AYA世代(15～39歳)のがんは年齢とともに種類が変化する。
- 2) 20歳以上のがんは女性が多い。  
20～39歳のがんの約80%は女性である。
- 3) 小児がんではAYAがんよりも患者の県外への流出・流入ともに多い。
- 4) 小児がん診療は全国15か所の小児がん拠点病院だけでなく、がん診療連携拠点病院等でも行われている。

# 症例数1-3例の施設における 小児血液腫瘍医勤務状況

がん診療連携拠点病院



県推薦病院



# 年齢階級別登録例数の比較

## (2016-2017年：日本小児血液・がん学会登録)

登録例数

30000

25000

20000

15000

10000

5000

0

■ 院内がん登録

■ 日本小児血液・がん学会登録

■ 小児固形腫瘍観察研究

0-4

5-9

10-14

15-19

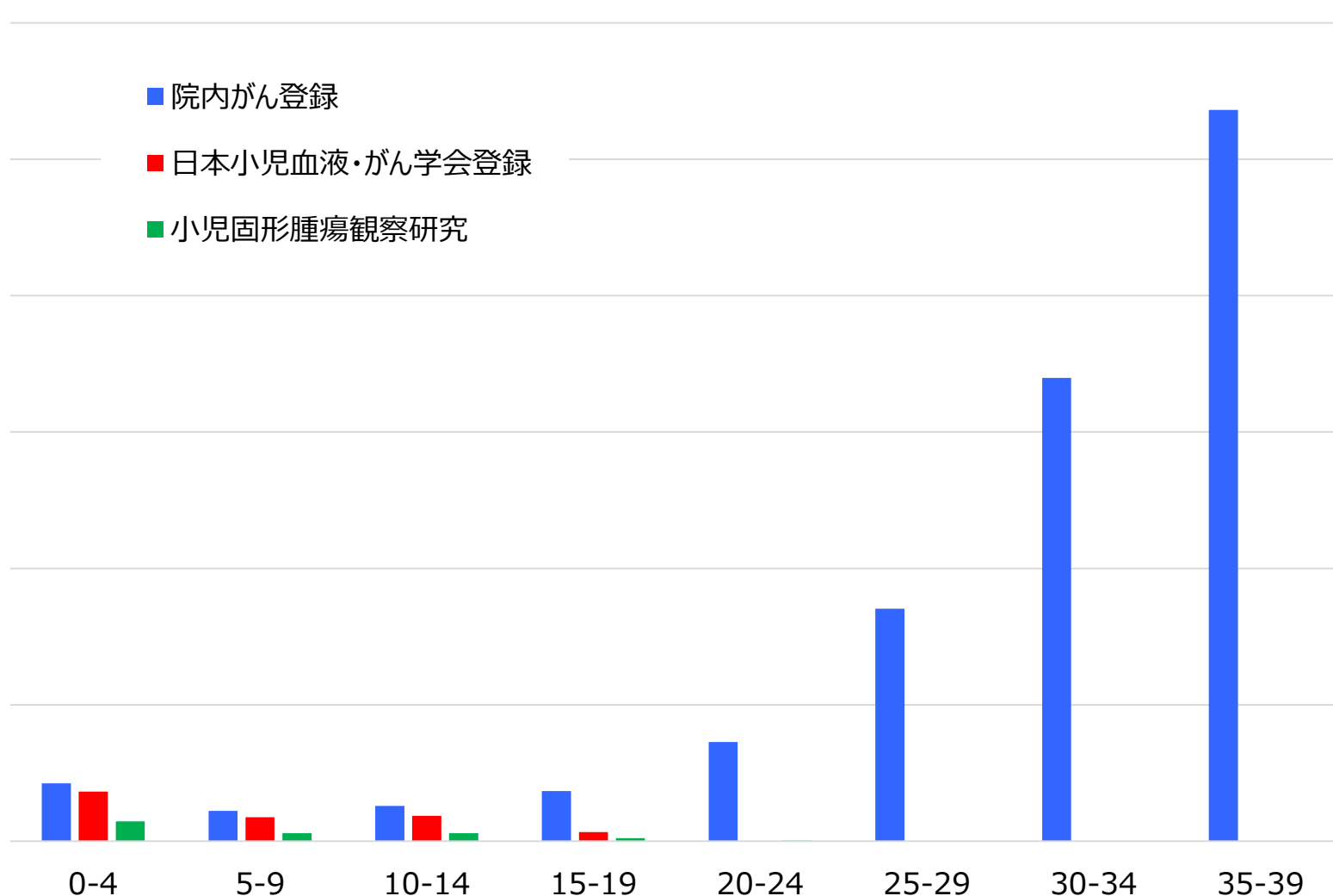
20-24

25-29

30-34

35-39

年齢（歳）





# 病院種別の疾患診療症例数 (2016-2017年：日本小児血液・がん学会登録)

